

## 【授業科目】 助産管理 Midwifery Management

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
日比千恵	4年次前期	選択	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／助産業務の特性を理解し、その業務に必要な管理の原理、産科病棟や助産所における妊産褥婦・児とその家族に必要な助産業務と産科病棟や助産所の管理に必要な知識とその体制を学ぶ。小グループでともに学び合う共同学習を中心に授業を進める。事前に課題を提示し、授業日までに教科書または文献等を参考に課題についてまとめ、それらに基づき授業日に意見交換を行う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出した課題のコメントは授業で全体の総評を行う。</p>							
実務経験に関する授業内容	産科領域の臨床経験を持つ教員が、助産師として必要な管理の知識について実務経験を交えながら指導する。							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「看護の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき看護を実践できる」に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①助産業務の特性を理解し、管理の重要性について述べるができる。</p> <p>②助産師の業務範囲と法的責任について述べるができる。</p> <p>③母子に対する社会保障制度を活用する支援が説明できる。</p> <p>④助産師の危機管理・災害時の対応について述べるができる。</p> <p>⑤助産所、病産院における助産業務管理の実際を説明できる。</p>							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>事前学習：教科書の関連領域・配布資料は事前に読んでおく。事前課題について調べ学習を行いまとめる（120分） 事後学習</p> <p>第1回：関連テーマについて調べ（60分）、自己学習ノートに記載する（60分） 第2～3回：関係法規について調べ、ノートに整理する（120分） 第4～5回：関連テーマについて調べ、自己学習ノートに整理する 第6回：助産師に関連する災害対策および対応について文献を読みノートに整理する。 第7回：病産院における助産業務管理についてまとめる（120分） 第8回：助産所の助産管理についてまとめる（120分）</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 助産管理とは 助産業務管理の基本と方法を学ぶ</p> <p>第2回 助産師及び助産業務に関連する法規と責任① 関係法規を学ぶ</p> <p>第3回 助産師及び助産業務に関連する法律と責任② 助産師の法的義務・届出を学ぶ</p> <p>第4回 周産期医療体制とチーム医療・地域連携</p> <p>第5回 医療安全と危機管理</p> <p>第6回 災害対策と助産師活動</p> <p>第7回 病産院における助産業務管理</p> <p>第8回 助産所における助産業務管理</p>							すべて日比
評価方法 評価基準	事前課題の発表（70%）、最終レポート（30%）、							
教科書	<p>我部山キヨ子、毛利多恵子編集 助産学講座10「助産管理」医学書院</p> <p>福井トシ子編：助産師業務要覧I日本看護協会出版会（※3年次前学期の助産学概論で使用したもの）</p>			参考書等	<p>成田伸『助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全』日本看護協会出版会</p>			
学生への助言等	助産師として助産管理の在り方を知っておくことは助産師として活動するうえで重要です。しっかり学んでください。							